

医療職への憧れより強く



将来、医療職を目指す室蘭栄高校(佐々木淳校長)の1、2年生がこのほど、室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)で開かれた「一日医療体験実習」に参加しました。生徒たちは医療現場に向き、普段行っている検査、豚の心臓を使った人工弁置換手術を見学、体験しました。生徒たちが熱心に勉強する様子を紹介します。

(坂本綾子)



モニターを見ながら超音波検査の説明を受ける生徒たち

講師は旭川医科大学の井上裕靖講師、同病院心臓血管外科長の赤坂伸之医師です。医者や薬剤師、放射線技師、臨床検査技師などを目指す1、2年生約30人が参加しました。生徒たちは病院見学や「地域包括ケア」室蘭市の未来像」をテーマにしたグループワーク、院内各部署での体験実習を行いました。医師を志望する生徒たちは、グループワークで「室蘭市のこれからと医療の姿」を発表しました。(この中で、市が抱える課題について人口減少や高齢化率、要介護率の上昇により、行政が滞ることを挙げ、「健康維持と兵助 認知症ケアが必要なのだが、認知度が

病理検査技師から病理診断の一連の流れを教わる生徒たち

室栄高1、2年生が体験実習

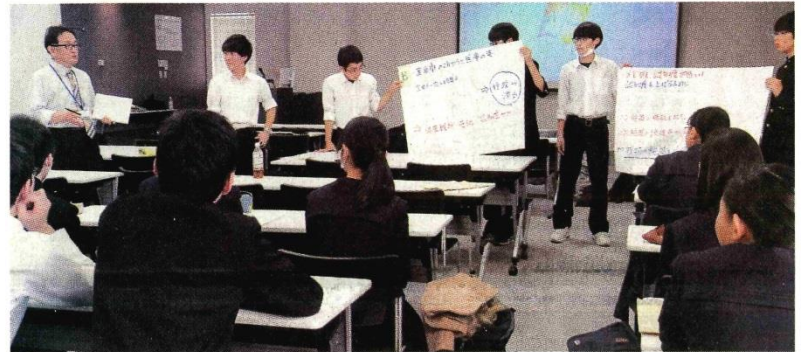
製鉄記念病院

低い。広報誌などを使って施策の機能を拡充していく必要があると思います」と話していました。

臨床検査技師を目指す生徒たちは、病理・臨床検査室を見学しました。心電図や肺機能検査、超音波検査、病理診断の一連の流れを学びました。検査技師は「医療は日々進化している。対応していくために、検査の仕方も常に勉強していかなければなりません」と説明しました。

臨床検査技師を目指す今香遙さん(1年)は「小さい頃から体が弱く病院に行くことが多かったため、将来は私も誰かの役に立ちたいと医療職を目指しています。病院を実際に見学し、臨床検査技師が普段、どんな検査をしているのかが分かり、ためになりました。目標に向かって勉強を頑張りたいです」と意気込んでいました。

北海道教育委員会主催、旭川医科大学共催。医師不足解消のため、道教委が取り組んでいる地域医療を支える人づくりプロジェクトの一環で行われました。



「室蘭市のこれからと医療の姿」を題しての発表を行った生徒たち